

本園では、創立 70 周年を前に、自然の少ない尼崎市で子どもたちが自然と触れ合える機会を設けるため、本園の敷地約 600 平方メートルにビオトープを設置しました。名前は、子どもたち、保護者、職員から公募し、「ビオ・あいのそのガーデン」と名付けました。

※ビオトープとは、生命：バイオ bio、場所：トポス topos の合成語で生物の生息空間のこと



ビオトープお披露目会



メダカを放流しました。

ビオトープ作りでは、業者だけではなく、子どもたち、保護者に自分たちが作ったという愛着を持ってもらうため、園児は小さなバケツに砂を入れて運んでもらったり、保護者には防水シートを貼ってもらったり、池掘りなど様々な作業を手伝って頂きました。



5 歳児はメダカの水路作り。



3 歳児も頑張っています。



保護者は防水シートの設置。



親子でペンキ塗り。イスをつくっています。



この日の作業は、子どもたち、保護者、職員など 119 名の方が参加しました。

本園の教育目標の一つに、「いのちを大切にする子ども」があります。今後、日々の保育・教育活動を通じて、子どもたちがメダカやチョウ、トンボなどの生き物と触れあい、また観察を通じていのちの大切さや他者を思いやる気持ちを育む場になればと願っています。



メダカの観察中！



今見たのは、何ていう虫かな？



野菜に水やり。美味しくなあれ

本園の特色として、園児たちの「ビオ・あいのそのガーデン」での日々の観察を核にし、自然と関連した行事である田植え体験、稲刈り体験、芋掘り、秋の遠足（自然観察）、また課外活動としての「自然と遊ぼう」などを更に充実させ、これら様々な自然体験活動を通じて、教育目標である“健やかな心と身体の子どもに”を目指して取り組んでいます。



がんばるぞ！！



おいも取れたよ！！



わ～大きなおいも！ビックリ！！

<田植え>



苗を小分けして上手に植えています。



農家の方の指導を受けながら子ども達は頑張っています。



ぬるっとした土の中、歩くのも大変です。

<稲刈り>



鎌の使い方の指導をうけています。



初めての稲刈りに真剣そのもの



金色に波打つ田んぼに足を踏み入れて、収穫の秋の自然を五感で感じ取ることができました。



あいのそのガーデンでの稲刈りです。



刈り取った稲を干しています。

(課外活動「自然と遊ぼう」の子どもたちです。)

観察用の橋やウッドデッキには、兵庫県産の杉などを使う「地産地消」にも取り組んでいます。今後は、保護者、地域の方、職員からなるビオトープ育成委員会（仮称）を組織し、管理、維持に努めていく予定です。

<参考>

○自然体験の意義

幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、園児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる。また、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にする気持ち、公共心、探求心などが養われる。(幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説より)